

第 8 回

川でつながる発表会

開催報告

川でつながる発表会



● 平成 25 年 2 月 10 日 (日)

● 練馬区立大泉南小学校

新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会



開催概要

■趣旨

新河岸川流域では、総合治水対策や水循環再生、多自然川づくりなどのいい川づくりに向けた取り組みの一環として、行政や市民団体、流域住民が情報・意見交換をする場として、「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催しています。

川でつながる発表会は、「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動の一環として、流域内の小学生から大学生までが行った、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動の成果を発表し、意見を交換することで、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、世代を超えた交流が生まれるきっかけをつくることを目的に開催するものです。

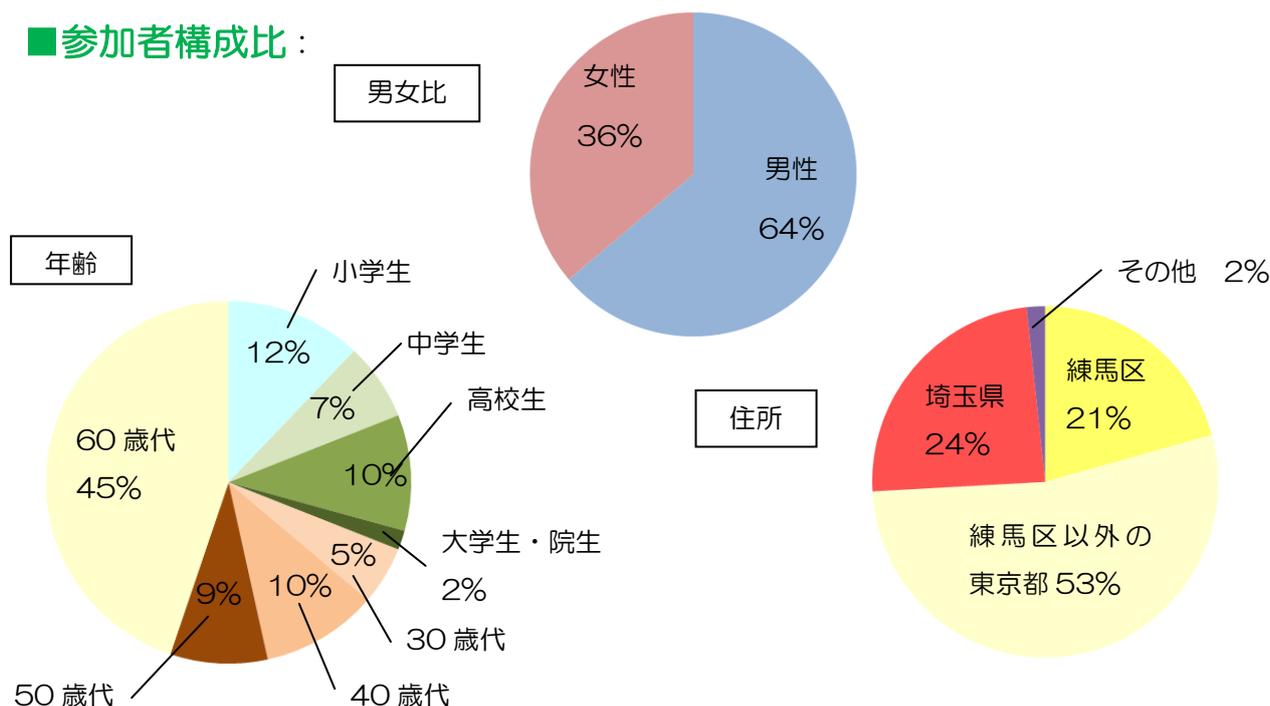
■開催日：平成25年2月10日（日）11：30～16：00

■開催場所：発表会本会場・交流会会場 大泉南小学校
現地見学会 白子川源流周辺

■主催：新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会

■参加人数：112人名（事務局除く）

■参加者構成比：



N=58（アンケート回答者）



■当日プログラム

時間	内容	
10:30	受付	
11:00	開会	
	挨拶	 <p>午前の部（現地見学会）開会に先立ち、練馬区立大泉南小学校長より「練馬区だけでなく新河岸川流域の多くの人と川をきっかけに『つながれた』ことをうれしく思っている。白子川の見学会を楽しんで頂きたい。」という挨拶がありました。</p>
11:05	現地見学会	<p>事前申し込みをされた方を対象に、白子川源流付近を歩く現地見学会が行われました。普段はなかなか聞くことはできない白子川源流付近の話に参加者は興味深そうに耳を傾けていました。</p> 
12:00	昼食	
13:00	挨拶	 <p>午後の部（発表会・交流会）開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より「発表会は活動の発表に対してみなさまから質問をすることで、交流をひろげることを目的としている。ぜひ活発な意見交換をして頂きたい。」という挨拶がありました。</p>
	発表会 発表（前半） コメント 質問	<p>発表会（前半）はところざわ倶楽部地域の自然グループ・早稲田大学理工学部、法政大学、自由学園男子部高等科から流域内での活動成果について発表がありました。</p> 
14:00	交流会 展示 クイズラリー	<p>参加者同士の交流を促進させるため、発表校だけでなく様々な団体からの出展がありました。中には、白子川の生物、白子川源流付近の模型、雨水貯留浸透マスなどユニークな展示物もあり参加者の注目を集めていました。</p> 
14:35	発表会 発表（後半） コメント 質問	<p>発表会（後半）は明法中学高等学校科学部、北区立浮間小学校、練馬区立大泉南小学校から流域内での活動成果について発表がありました。</p> 
15:15	交流会 表彰状授与	<p>荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状授与のさいは、少々緊張気味の顔つきも受領後はみんなとても満足そうでした。</p> 
	交流会 講評	 <p>最後に、新河岸川水系水環境連絡会代表の菅谷さんから、「今回の発表会を通して、「人がつなぐ発表会」であると改めて実感した。今後も引き続き、行政の方々にも協力していただいて、発表会が継続できることを願う。」という講評がありました。</p>
15:55	閉会	
	記念撮影	<p>恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。</p> 



発表校紹介

■ところざわ倶楽部地域の自然グループ・早稲田大学理工学部■

林と川を守るために～私たちにできること～



ところざわ倶楽部地域の自然グループ・早稲田大学理工学部からは、大学と市民グループが協働で行っている林保全活動、緑のダムと呼ばれる林の効果に関する発表がありました。ところざわ倶楽部は所沢市民大学 2 年の時に地域の自然について学んだ仲間たちで構成されており、月に 2 回調査や保全活動が行われています。山に広葉樹を植えることで腐って分解された落ち葉の栄養が雨水や地下水に溶けて海に流れ込み魚が食べる栄養が豊富になりたくさんの魚がとれる「森は海の恋人運動」という考え方を知ったことが、早稲田大学所沢キャンパスで砂川堀の林をきれいにする活動の背景となりました。林の手入れをしなくなって増えた常緑樹を落葉広葉樹に戻し、雨水を地下水としてたくさん蓄えられる林にすることを目的に活動されています。常緑樹の伐採、落ち葉かき、落ち葉を堆肥として畑や作物に利用する流れのことを里山の循環型と呼び、人と生き物が一緒に暮らせる理想の世界であることに気付いたと説明がありました。最後に、降水量と流出量の実験として大学の湿地では降った雨の 89%（見かけの数値：実際には植物による蒸散がある）は地下水として蓄えられる（涵養）ことについて紹介がありました。

■法政大学水文地理学研究室■

地域特性を活かした水環境の保全・復元・再生
— 全国的事例と新河岸川との比較から —



法政大学水文地理学研究室からは、新河岸川流域の全域における水質調査の分析結果や産・官・学・民による川づくりの事例に関する発表がありました。はじめに、下水処理水による河川の高水温化、畑作の窒素肥料による河川水汚染など水環境問題に関する説明がありました。そこで全国の水質データを調査し、全国的に窒素汚染が大きな問題となっていることを提起しました。新河岸川流域では、上流部を中心に公共用水域測定地点が少なく、流域全体の水質把握ができていないことから、支流ごとの詳細な水質調査が行われました。調査の分析結果は水に含まれる陽イオンと陰イオンの関係を把握することができるシュティフダイアグラムにまとめられ、支流の上流部は下流部と比較して水質が良くないことが指摘されました。今後の水環境の改善のためには、産官学民が連携して流域住民や河川とのつながりを大切に、イベントなどを実施していくことが重要であると説明がありました。最後に、水文地理学研究室で過去に実施してきた地域との連携として、小学校や高校と共同したビオトープ作りや稲作体験について紹介がありました。



■自由学園男子部高等科■

立野川・落合川の植物



自由学園男子部高等科からは、校内を流れる立野川で行っている活動として、特定外来植物の駆除、川の生物が棲める池づくりに関する発表がありました。まずは、活動場所である立野川についてその位置、長さ、湧水量、歴史など概要について紹介がありました。川管理グループでは立野川の観察、計測、特定外来植物の駆除が行われています。駆除活動は2010年秋に立野川でオオカワジシャが発見されたことから始まりました。2011年には、当時ミクリの研究を行っていた大学の学生から、研究の阻害になるから駆除を手伝ってほしいと要請があり、当時繁茂しすぎていたオオカワジシャの駆除が行われました。オオカワジシャの駆除は、90リットルのゴミ袋で49袋分、合計で290キロ分ほどになったとのことでした。要注意外来生物であるオオカナダモについて、観賞用や実験用などの目的で日本に入ってきて、立野川でも見られ、これらの3種類の植物の駆除が川管理グループの仕事になったことが紹介されました。次に、駆除方法について説明がありました。駆除方法は単純で、流された植物片を止めるため、下流に網を張り、袋に入れるだけで、根元まで完全に取り除くことがポイントです。最後に、学園の敷地内にある池で、落合川の植物で自然を再現するというコンセプトで取り組む池づくりについての紹介があり、今後は池の水をきれいに保つための方法を考えることが課題となっているそうです。

柳瀬川流域ネットワーク鈴木氏 和光自然環境を守る会小倉氏・によるコメントと質問

発表後にコメンテータから各発表者へ、以下のようなコメントと質問がなされ、発表者からその回答がありました。



①ところざわ倶楽部地域の自然グループ・早稲田大学理工学部へのコメントと質問

- ・市民グループが大学と共に活動していることは良いことだと思う。一方で、若い生徒とのつながりも重要と思う。それは、学生はどんどん回転してしまうが、先生や社会人のような経験者と共に活動できれば、経験が伝わると思うが、どうか。
- 活動は65歳以上の高齢者も多数いるが、その方々も元気に活動している。また、学生は毎年回転するが、研究に係わりを持った人間を辛抱強く育てていくことが重要と思う。
- ・昔のような雑木林を取り戻すことは困難であり、また維持管理していくことにも課題がある。我々が望むのは、雨水を多く浸透させ、地下水に涵養できる樹木であるが、それらについてご意見を頂戴したい。
- 雑木林の管理については、住民と一体となった管理方法を構築する必要がある。産・学・官が連携して、そして、共通の危機意識を持って取り組んでいくことが重要である。いろいろな方々が情報を共有することも重要であるため、このような集いの場を活用していくことも大切である。



②法政大学水文地理学研究室へのコメント

- ・ 質や人の活動を大きな視点で捉えることは重要である。その中で、新河岸川流域に着目して研究していただけたことを嬉しく思う。
- ・ 新河岸川流域では、市民団体が中心となって20年近く水質の一斉調査を実施している。一方で、全窒素は計測に手間がかかるため、市民による調査は難しいという面もある。全窒素等の計測を大学に協力していただくことを願うとともに、一斉調査の結果等も活用して研究していただけると市民団体としても光栄である。

③自由学園男子部高等科へのコメント

- ・ 自由学園は、非常に良い環境のもとで活動を行っていると思う。その中で、「川管理グループ」という名称のグループが活動していることを嬉しく思う。
 - ・ 川に関する活動については、手間暇かけて実施していると考えられる。しかし、現実の自然の河川では、管理に手をかけられないのが現状である。今後、手間暇かけずに外来種を駆除できる方法等を研究テーマにいただけると嬉しい。そして、是非とも今後の川でつながる発表会で発表していただきたい。
-



■明法中学高等学校 科学部■

空堀川の水を追って



エアプラネタリウム

Meiho Kagakubu

空堀川

荒川水系 一級河川

- ・ 水源: 武蔵村山市野山北公園
- ・ 全長: 1.5km
- ・ 流域面積: 26.8km²
- ・ 支流名: 柳瀬川(流瀬町)



かつては洪水氾濫がある一方で、大雨が降ると激しい洪水も繰り返していた。
 現在は、流域開発に伴い水質が著しく悪化し、悪臭やヘドロの堆積が深刻であった。
 現在は様々な施策が講じられ、改善されつつある。

Meiho Kagakubu



明法中学高等学校 科学部からは、環境を考えたエアプラネタリウムやソーラーカーの製作、空堀川の川歩き、空堀川の水質データの PH に着目した調査に関する発表がありました。科学部で初めて製作した 4 輪ソーラーカーは地域のイベントで 200 人に乗ってもらったとの報告がありました。次に、川あるきを実施した空堀川について水源、全長、流域面積、空堀川と呼ばれる由来等の概要に関する説明がありました。空堀川の川歩きは、「1. 空堀り川に対する理解を深める。2. 空堀川の現状を実際に見ることによって知る。3. PH の値が上流に行くにつれてどのように変化するのか調査する。」の 3 つを目的に実施されました。川歩きでは、護岸工事をしている場所がところどころにあること、川にはゴミがすてられており、綺麗な川であるという印象は受けなかったこと、上流に行くにつれて川幅が狭くなっていくことなど実際に川を歩いて感じた感想について発表がありました。最後に、水質調査の結果として、上流部から下流部に行くにしたがって徐々に PH が上昇していることがわかったと成果について説明がありました。周辺地域の下水道普及率を考えると川に入ってくる湧水がアルカリだと思つたと考察したうえで、会場に PH が徐々に上昇している原因について情報提供を依頼する場面がありました。

■北区立浮間小学校■

育て「うきま里山」

「出前授業の様子」



うさぎ池の観察



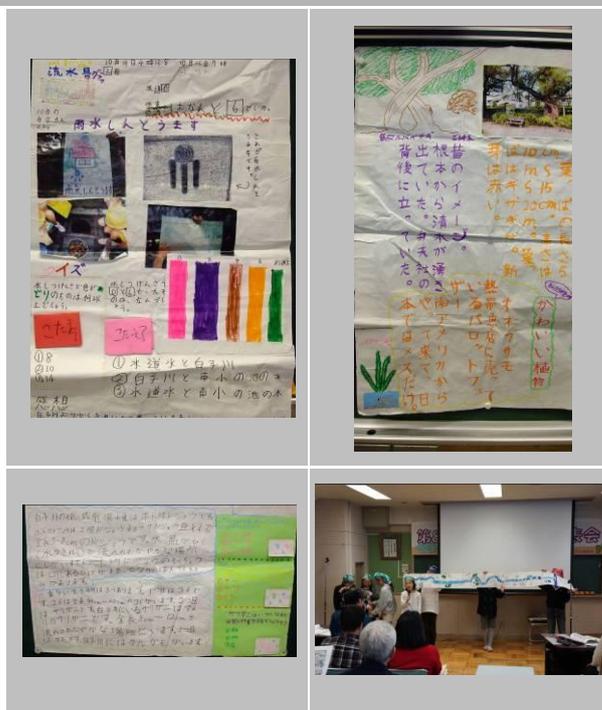
北区立浮間小学校からは、学校・地域が一体となって活動している里山保全、棚田作り、小川作り、里山や小川での学習活動の様子に関する発表がありました。まずは、発表会へ参加のきっかけとして、昨年の 7 月に水循環の出前授業を受け、水に関する意識が高まったと説明がありました。里山については、30 年ほど前のプール改修時の土を子どもたちが遊べるように手を加えたものがうさ山と呼ばれ、近所の保育園が遠足にくることもあるという紹介がありました。さくら草庭園については、25 年前の体育館の新築時に PTA から後世にのこるものをと地域の花であるさくら草が送られ、今は 5 年生が世話をしており、花が咲く時期には地域に開放しているという紹介がありました。自然と人間が共生していく里山をうきまにつくろうという計画の「うきま里山構想」をつくり、平成 21 年には山のふもとにある家という想定で、うさ山のふもとにうき穴住居、平成 22 年には里山には田んぼが必要ということで、うさうき棚田、平成 23 年は、棚田と池をつなぐ小川を造ったと計画の実行に向けて着実に進んでいることを報告がされました。平成 25 年度は井戸掘り、水車づくりとホタルの生息環境づくりに挑戦するそうです。



■練馬区立大泉南小学校■

白子川博士になろう

練馬区立大泉南小学校からは、白子川に生息する生物、植物、水質調査、白子川にかかる橋や周辺にある学校などに関する発表がありました。白子川の水質について、パックテストを活用し水道水、学校の池の水と比較した結果に関する発表がありました。白子川の植物について、マルバヤナギの葉や木の長さ、色の紹介などの他に、マルバヤナギの調査と時に見つけたオオフサモなどについても紹介がありました。白子川の生物について、絶滅危惧種に指定されているホトケドジョウの大きさ、産卵の時期、寿命、特徴などの紹介がありました。また、白子川に多く住んでいる生物ベストスリーとしてコイ、ザリガニ、カモが挙げられました。白子川にかかる橋について、その数や橋の名前について紹介がありました。最後に、白子川や川にかかる橋に関するクイズが用意されおてり、観客の興味を引いておりました。



黒目川流域川づくり懇談会 藤井氏 エコシティ志木・天田氏によるコメント・質問

発表後にコメンテータから各発表者へ、以下のようなコメントと質問がなされ、発表者からその回答がありました。

④明法中学・高等学校 科学部に対するコメント・質問

- ・空堀川における pH が高い点に興味を持って、調査を行ったようであるが、原因はどのような点にあったか。
- 上流から下流に向かって徐々に pH が高くなっているため、局所的にアルカリ性の強い雑排水等が流入している可能性は低く、アルカリ性の強い湧水が点在していることが 1 つの要因として推察される。(明法中学・高等学校)
- 空堀川について活動している市民団体も多く存在するため、彼らと協力して原因を究明できると良いと思う。(藤井氏)
- ・空堀川の気温と水温の関係で、冬期に水温の方が温度よりも高い点がおもしろいと感じた。
- ・空堀川の COD がやや高いように思うので、その点についても調査していただくと良いと思う。
- ・空堀川の pH が高い原因として、違法に何かが流されていることも考えられる。(天田)

⑤北区立浮間小学校に対するコメント

- ・浮間小学校に是非行きたいと思った。
- ・浮間小学校におけるピオトープのような活動はこれまでもいろいろな学校でやられてきたが、数年で衰退してしまうのが現状である。しかし、浮間小学校は全学年で取り組んでいるため、今後も継続的に実施されるであろうと安心した。

⑥練馬区立大泉南小学校に対するコメント

- ・白子川は一見、コンクリートで覆われた河川のように見えるが、水がきれいで、多くの生物が棲みついていることがわかった。
- ・今回の調査で、多くの生物が白子川に棲み、生活していることがわかったと思うので、これからも地元の川を大事にしてほしい。



感想カード

各校の発表の後に、カードによって参加者の発表に対する感想が示されました。

<p>・ 地域の自然グループ 早稲田大学理工学部 ところざわ倶楽部</p>	<p><多かった感想> ★ 今後も期待</p>	<p>法政大学 水文地理学研究室</p>	<p><多かった感想> ★ 新しい発見があった</p>
<p>自由学園男子部 高等科</p>	<p><多かった感想> ★ 今後も期待</p>	<p>明法中学・高等学校 科学部</p>	<p><多かった感想> ★ 今後も期待</p>
<p>北区立浮間小学校</p>	<p><多かった感想> ★ 今後も期待</p>	<p>練馬区立大泉南小学校</p>	<p><多かった感想> ★ 一緒に活動してみたい</p>

○現地見学会

白子川源流付近を見学



事前申込をして頂いた方を対象に白子川源流付近のまち歩きに参加いただきました。見学会コースの見所は白子川源流、石庭の新緑地、井頭こぶし憩いの森などです。各ポイントの説明は白子川・源流水辺の会に協力して頂きました。普段はあまり聞く機会がない白子川や練馬区の話について、参加者達の好奇心がかき立てられているようでした。



○交流会（展示）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！



練馬区立大泉南小学校の家庭科室がパネル展示室となりました。発表団体、行政、川づくり団体、地元の学校などに協力して頂きました。特に今回のパネル展は、白子川源流付近の模型、白子川の絶滅危惧種を観察できる水槽などパネル以外の展示物もあり、参加者の興味を集めていました。また、今回の発表会をきっかけに、雨水貯留に興味を持ったという参加者からの声もありました。



展示パネル紹介



ところざわ倶楽部地域の自然グループ
早稲田大学理工学部



法政大学



北区立浮間小学校



練馬区立大泉第二中学校



川づくり・清瀬の会



白子川・源流水辺の会



黒目川クリーンエイド実行委員



練馬区



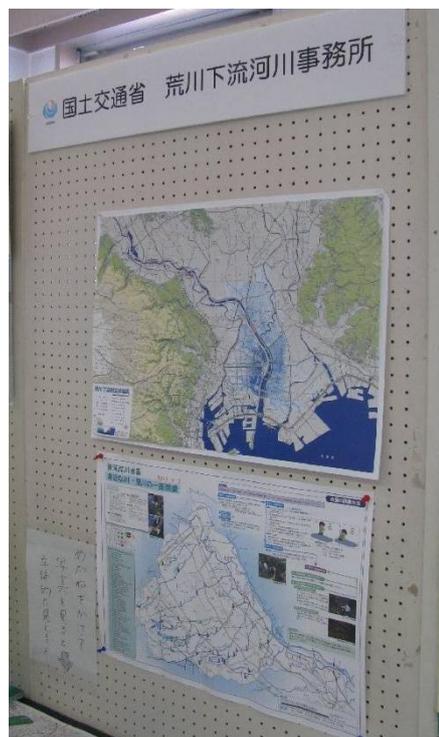
練馬まちづくりセンター



雨水貯留浸透技術協会



新河岸川流域川づくり連絡会



荒川下流河川事務所